

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年11月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1691000028		
法人名	株式会社　せせらぎ		
事業所名	グループホーム　柿の華		
所在地	富山県南砺市高宮５１０６		
自己評価作成日	平成30年10月3日	評価結果市町村受理日	12月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成30年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の周辺には田んぼや畑があり、四季を感じながらゆったりとした気持ちで生活することができる。また、地域の方との交流もあり、毎年夏祭りにも参加させてもらっている。家庭的な雰囲気の中で、洗濯物干しやたたみ、食事の準備や買い物など、利用者が自立した日常生活ができるよう、職員が見守り・支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、家庭的な雰囲気をつくり、利用者の傍らに寄り添い、共に過ごす時間を多くつくっている。また、本人や家族の「柿の華で最期まで暮らしたい」との希望に沿うなど、一人ひとりの思いに応えるよう心がけている。家族や地域の人達と一緒に、食事会を催し、楽しく交流したり、ライトアップされた近くのお寺の枝垂れ桜を見物に出かけるなど、張り合いのある暮らしの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

グループホーム 柿の華

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして、今まで暮らし続けてきた地域の中で生活しながら人や自然と関わり合い、また地域行事への参加が出来るような理念の実践に取り組んでいる。	理念に即した支援ができるよう、職員全員で具体的なケア方法を確認し、理念の共有と実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りも毎年見物させてもらっている。 地域の方からメダカ、金魚、飼育道具をいただき飼育している。 スーパーに買い物に行き地域の方に会おうと声をかけていただけける。	地域のサロンや夏祭りなどに呼んでもらい、顔見知りの関係づくりにつなげている。また、近隣の方が事業所の畑の手伝いに来てくれるなど、地域の人達とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談にはいつでも対応出来る様にしている。 買物や散歩に出掛けた時、声をかけていただいた時には相談にのるように心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や状態、行われた行事や今後の予定等を話し合っている。市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・区長又は副区長・地域代表の方等の意見を聞きながらより良い生活が送れる様にしている。また家族の方からも意見が得られるよう運営推進会議への参加を促している。参加できない場合でも意見を頂けるように伝えている。	事業所の日頃の取り組み状況を報告し、参加者から意見をもらうほか、地区役員が、地域の課題などを行政担当者に相談するなど、色々な角度からの話し合いが行われ、介護の担い手として、事業所の運営の参考にしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点がある時には、市の地域包括ケア課・砺波介護保険組合に連絡し相談している。市職員の方には運営推進会議にも参加しているので会議の中で相談している。	わからないことがあれば、すみやかに市の担当者に相談している。また、利用者家族との話し合いの場に、必要があれば市の担当者も同席し、課題解決につなげている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い身体拘束が出来るだけ起きない様に話し合っている。夜間以外は玄関等も施錠せず出来るだけ見守り等で対応し安全に配慮している。	事業所内研修のほか、身体拘束につながりそうなことが起きれば、その場で状況を確認し、今後のケア方法を職員間で確認している。また、利用者の思いを受け止め、優しく対応し、心身共に抑圧感のない暮らしの提供に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員には最初に教えるようにしている。その後研修等を行った際にも再度、虐待のない生活を送っていただける様、言葉遣いや行動に気を配るように職員全員で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、職員に理解・経験の差があるが、学ぶ機会を作り理解を深めるようにし、問合せ等の対応を数人の職員が行っている。その際は管理者が付き指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、重要事項説明・契約説明を行っている。契約前にまず重要事項、契約書を読んでもらい、ご家族の皆さんには、分からない所は分かるまで説明している。また、事前にホームを見学していただいたり、不安や疑問点についても、随時お答えできるようにし、ご家族・本人の理解を得た上で契約・同意していただいている。その後も不明な点については対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の普段の会話の他に表情や動作、話し方等で変化や思いが見受けられた時は、利用者が話しやすい職員と1対1で話をし意見を聞き出せるようにしている。家族にも面会の時やアンケートを作成し意見や要望が聞けるようにしている。	利用者からは、食事の内容や外出先などの要望が出され、家族には「何でも言ってください」と常に声をかけ、意見をもらっている。また、利用者、家族、職員らが交流する食事会を開き、家族との良好な関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度は会議を行い、その都度職員の意見を聞くようにしている。また、日々の気付いた事に関してはなかなか時間が合わない事から申し送りノートを使用して意見交換を行っている。	ミーティング時には、ざっくばらんに色々な意見を述べてもらっている。また、代表者は、職員の表情などに留意し、個々の思いを聞き出すよう努め、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との話し合いや個々の職員と面談を行う事で、一人ひとりの現状を把握し、今後どのようにしていくかを話し合うようにしている。その際に職員の思いや悩みなどの意見を聞き、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開催された研修には、職員が順番に参加し、その研修の資料や内容を全職員見られるようにファイリングし、いつでも確認できるようにしてある。また研修で学んできた事を、仕事の中で他の職員に動きながら伝えるようにしている。事業所内の研修を3ヶ月に1度行い、日頃の疑問等を話し合えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域ケア会議や地域リハビリテーション研修会へ参加し交流を図っている。分からない事は他施設の同業者の方からお話を聞き教わっている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム利用希望の相談があった時は、必ずご本人と会って要望や利用にあたっての不安等を聞き、出来るだけ不安のないようにしてから利用できるようにしている。ご家族ご本人との意見の違いについても出来るだけ話し合って解決するようにしている。またホームを見学していただき、ホームの様子や雰囲気を感じてもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階でまず施設を見学していただき、当ホームとして出来る事と出来ない事をお話し、どのような方向性で行っていくか、他にも合うサービスがないかをゆっくり話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や来所にて相談を受け、ホームでは難しいと判断した時は、他のサービスを紹介し、協力施設に希望するものがあれば状況を聞き、紹介を行ったりアドバイスをしたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方と一緒に出来る事を行いながら生活し、昔からやっている事を教えてもらうなど、話をしながら関係作りを行っている。相談事や不安・ご家族への不安や不満等もゆっくり聞くようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を取り合い、心配事や頼み事等を相談し合う事でご家族にも無理がかからぬよう、本人の為にどの様にしていけばよいか、時間をかけてより良い解決方法を出せるようにしている。 本人・家族・職員が一緒に食事を楽しむ、話が出来るように食事会も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から友人宅・同窓会・冠婚葬祭・行きつけの店・行きたかった場所等に希望が出た場合は、家族と相談しながら対応を検討している。友人など第三者が関わる場合には連絡し了解を得てから一緒に同行し、出来るだけ疎遠にならないように支援している。地域の祭り、買い物等へ出かけ、地域の方と会える場を作っている。	城端の曳山、福光のねつおくりなど、利用者の地元のお祭りなどに参加している。また、外出時に「此处へよく来た」などの声を吸い取り、次の外出に活かしている。また、知人などの訪問があれば、お茶を飲みながら談笑してもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、職員、皆で色々な話をする場面があるが、その方のその日の状態を考慮して行うようにしている。毎日一人ひとりに声掛けをするように心がけ、また一人で過ごす時間も尊重しつつ、あまり長くならないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方の家族より相談等があった時にお話する事はあったが、ほとんどは会った時に話をする程度になっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	話の内容や表情から、その方の思いを把握するようにし、職員には話さない利用者同士の会話からも把握できるようにしている。また意見や思いを聞いた際には職員同士が共有できるように申し送りノートを活用したり、直接管理者に話し他職員に伝えてもらうようにしている。	一緒に編み物をしたり買い物に出かけたりする中で、利用者の会話、表情、仕草などに留意し、一人ひとりの思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際の情報と、本人・ご家族との話合いから、どのような生活をされていたのかを把握するように努めている。また可能であれば今まで生活していた様子を確認したり、実際に行動していただいたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動や動きをよく見て生活のリズムを把握するようにしている。そのおかげで、変化があった場合にすぐ気付くようになり、何が原因か・どうやって行かなどを職員一丸となって話し合い、方向性を決めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画見直しの際は、家族の面会時に本人の部屋で話しやすい環境で本人・家族・職員で話し合っている。モニタリングした結果を家族に提示し、本人の思いを知ってもらい、より良い生活ができるようにしている。職員も計画を見て意見を反映できるようにしている。	職員一人ひとりが、利用者の日々の暮らしをよく見つめ、変化が見られれば、家族の意見を聞きながら、本人に確認した上で、介護計画に取り入れるなど、本人が心地良く暮らせる介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は個別になっており、食事量・排泄・日常の様子等本人の言葉で記録するようにしている。また、記録は職員がいつでも閲覧できるようにしてある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望や思い、ご家族の要望等に応じられるように勤務者数を変更したり、時間を調整したりしている。急に職員が必要な時は、可能な限り対応出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員や区長・地域代表から地域資源についてアドバイスをもらい活動や行事への参加をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望する病院への受診は基本的には家族の方をお願いしている。都合が悪い時や緊急時には職員でかかりつけ医への受診を行っている。往診以外でも緊急時にかけつけてくれる当ホームの協力病院をお願いされている方が多い。	家族付き添いによる受診と、協力医による訪問診療を選んでもらっている。協力医は、必要な際には、家族に症状を直接説明するなど、適切な医療受診につなげている。	家族が受診に付き添う際には、日頃の様子をメモなどで伝えているが、今後は、医療面での情報が適切に報告できるような書式を作成することが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当医院の医師・看護師にいつでも相談できるようになっている。また看護師の職員も確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1～2ヶ月間の待機期間を設ける事で、また戻ってこれるという安心感が持てるようにしている。また入院中の本人の状態をお見舞いなどの機会を利用し見させていただき、ご家族・担当医師・地域連携室・その他関係者と話し合いながら必要になるであろう物を揃えるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、医療行為が行えない事、今の施設での出来る事を伝え、どの様に過ごしていくか、望まれているかを聞いている。話し合った内容を担当医院に伝えご家族、本人の思い、当事業所としてどうやっていくべきかを話し合っている。実際に終末期に近付いた時には、再度本人・ご家族・担当医・職員・管理者にて話し合い、よりよい選択を確認し合っている。	利用者や家族から「柿の華で最期まで」との希望があれば、医療面の対応はできないことを説明した上で、医師の意見をもとに、事業所の支援体制を整え、利用者や家族の思いに応えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行われていないが、このような場合は主治医に連絡し、速やかに対応するようにしている。救急箱をすぐ手の届くところに置いておき、必要に応じて応急手当をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを確認しながら話し合うようにしている。運営推進会議等でも地域の方に協力をお願いしている。避難訓練を年2回行い、うち1回は消防の方の立会訓練を行っている。職員は極力参加し、参加出来なかった職員にも訓練の報告と確認をしている。地域消防団の方に部屋割の確認をしてもらった。	昼夜の火災訓練を年2回実施し、内1回は消防署に立ち会ってもらい、助言を得ている。また、停電などに備え、ガスコンロなどを準備している。	避難訓練には、地域の人達に参加をお願いしているが、今後も引き続き働きかけ、参加につなげることが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けを行い、本人が好ましく思っていない会話などは避けている。また家族に事前に相談し気分を害する会話を知っておくようにしている。	最期までその人らしいあり方を目指し、利用者自らの決定権と、一人ひとりの個性を尊重した対応に努め、人としての尊厳や権利を損なわない支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を口に出された時は、自分で決められるように時間をかけながらゆっくりと聞き出し、話し合っていくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、他の時間は体調等を考慮しながら、本人の気持ちを尊重し一人ひとりが自由に過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時・入浴時・着替え時等本人の意向で決めている。外出時には急いで準備する事の無いように、余裕をもって日時を伝え、本人が納得の出来るおしゃれができるまで待つようにしている。2ヶ月に1度の訪問理美容サービスを、希望する方は利用している。またご家族と一緒に馴染みの理美容院へ出かけられる方がおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材やおやつを一緒に買いに行き、一緒に買った品物を調理している事や、自身が買った品物で調理されている事を知り楽しみができ、また買った品物を食べる楽しみができる。地元の特産物、料理を出すように心がけている。	職員と一緒に買い物に出かけ「これ食べたいね」などの声があれば、献立を変更している。各々ができることを手伝い、「このさつま芋美味しいね」などと会話しながら、食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事にし、少食の方には少なめ、硬い物が食べられない方には刻みまたはムース食にしている。水分を取りたい時にはいつでも取れるように、お茶の入ったポットを用意してある。食事時・10時・15時には必ず取っている。食事の摂取量はチェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛け、見守り、介助をしている。朝食前か夕食後の片付けが終わった後に、希望された方に緑茶を出している。就寝前には義歯の洗浄・除菌を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人記録にトイレの時間を記入する事により、本人に合った排泄時間の間隔・一日の平均回数を把握し、支援を行っている。	基本的に、トイレで排泄できるような支援方法を職員間で確認し、時間を見計らっての声かけなどを工夫している。また、羞恥心に配慮し、過剰なケアを控え、排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫を心がけ、食物繊維を多く取ってもらえるようにしている。飲料は様々な種類を準備し、飽きがこないようにし水分を取りやすいようにしている。散歩など少しの距離でも歩行していただくようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には曜日や時間帯が決まっているが、希望があれば変更している。危険が無いように出来るだけ見守りを重視して対応し、出来ないところを支援している。また一人で入浴したいと言われる方には家族に相談し了解を得た上で見守りを行いながら一人で入浴を楽しまれている。	体調面を把握した上で、利用者が好む湯温や入浴時間に配慮し、利用者から「あーさっぱりした」などの声をもらっている。多汗の時期には、シャワー入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った生活習慣に合わせて休まれている。特に就寝時間なども決めていないため、一人ひとりが自身の時間で休まれている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一日毎に必要な薬を個々に分けて見やすく保管している。また薬剤情報は個々にファイリングして保管してある。服薬の際には、職員より手渡しし服薬できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草むしり・畑仕事・家事等一人ひとりがやりたい仕事・出来る仕事をされている。本人の経験・知恵を発揮できるようにし、やっていただいた後には感謝の言葉を伝えている。週3～4回の買い物やドライブが楽しみな方もおられる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や雰囲気に応じ、買い物やドライブへ出掛けるようにしている。また散歩や畑に行く時も一緒に行くようにしている。本人の希望やTV・会話等で話が出た場所には、一度職員が下見に行き、歩く距離・段差・トイレ等を確認し、支障のない場所にはご家族の許可を得て行くようにしている。またご家族との外出の際には本人の現在の状態、対処方法などを伝えている。問題が生じた場合は連絡頂ければ対応出来る事を伝え、本人・ご家族が不安を感じないで外出できるようにしている。	事業所の敷地内をアスファルト舗装し、安全に戸外で過ごし、柿の実が色づく様を眺めたり、食材や日用品の買い物などに出かけている。また、夜桜やひまわり、コスモスなど、四季折々のお花を見がてらのドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き商品を選んでもらい、自分の欲しい物を購入している。また外出時にお土産を購入されたりし、お金を使用する機会を作っている。また、訪問販売も取り入れ、自分のペースでお金の支払いができる機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればご家族了承の上、それに応じた電話や手紙のやりとりを行っている。電話を使用する際はプライバシーに配慮し、他利用者から離れた場所、居室などで使用をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や物を取り入れたり、広間には写真を展示したりしている。七夕飾りやクリスマスツリーなど、季節にあった飾り付けを行い四季を感じられるようにしている。自宅で過ごしているように感じて頂けるよう、自宅にある物以外は極力目に付かないようにしている。	リビングに、ドライブなど行事の際の写真やクリスマスツリーなどを飾り、和やかな雰囲気をつくっている。その中で、洗濯物たたみや編み物など、くつろいで過ごせるよう配慮している。また、季節に応じた温度や湿度管理に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し他の方から目の届かない角の位置に椅子を設置し、気の合う方同士で話しやすいようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、自宅より家具やタンスなどを持参していただき、本人・ご家族と一緒に配置を決めている。中には、写真やカーペットなど使い慣れた物を持参される方もいる。	なるべく自宅で使っていた物を持って来てもらい、家庭的な雰囲気をつくっている。また、ぬいぐるみに囲まれた部屋など、利用者が落ち着いて暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事・出来ない事を職員が話し合いながら、本人にあった支援を行い、出来る事を安全に行なってもらえるよう、座る場所の配慮や使いやすい道具、安全に運べるその方に合った量の調整等を工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 柿の華
作成日 平成30年12月3日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	30	書式は作成してあるが、定期的な受診の際はメモを書いて家族様にお渡ししている。また、書式を利用して記入できる職員も限られている。	全職員が書式を利用して記入し、情報を統一して伝える事ができるようにする。	書式を利用した記入方法を全職員に覚えてもらう。	1ヶ月
2	35	避難訓練は年2回実施しているが、近隣住民の方々との訓練は行っていない。以前には実施の話もあったが、なかなか上手く勧められず行えていない。	近隣住民の方々に参加してもらい避難訓練を行う。	運営推進会議を通して、避難訓練に参加してもらえるように伝える。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

グループホーム 柿の華